



# カレー屋



川崎ゆきお

「昨日は何があったかなあ」

岸和田は思い出そうとした。これにはきっかけがある。昨日の出来事の中から何かを探すのではなく、なぜ今、昨日何があったのかと思ったのかだ。要するに目的があるはず。思い出す必要性のある。

しかし、そのことを意識せず、岸和田はカレーを食べたことを思い出した。それは思い出しやすかったためだろう。昨日、それが少しだけ印象に残った。昼食後、昼寝をし、その後、散歩に出た。商店街をうろうろしているとき、お腹がすいたように感じられた。まだ四時頃で、食べるには早い。いつもなら三時のおやつで、ビスケットを二つか三つ食べている。それを切らしたため、持ってきていなかったのだ。買えばよかったのだが、おやつを省略する日はいくらでもあり、それでお腹がすいて何ともならなくなるほどのことではない。それに最近高い目のビスケットを買っている。小遣いの使いすぎだ。だから、できるだけおやつは買わないようにしたいと心がけていた。しかし、お腹がすいたように感じられる。わずかだが、何かを食べても良いように思われたのだ。その先にカレー屋があることを意識してのことだ。

ここで夕食をとると、寝る前、お腹がすく。そこでまた夜食を食べる必要がある。カレー専門店のカレーなので、安くはない。それに岸和田は外食など減多にしない。これも生活費が限られているためだ。外食を続けると経済が持たない。月の上旬だけで食費は切れるだろう。

だが、小腹がすいたとき、偶然近くにあったカレー屋でカレーを食べるぐらいの余裕は欲しい。毎日ではないのだ。そういう気分の時だけでよい。

結局、岸和田はカレーを食べたいという気分的なこと、それほどお腹もすいていないのに、飛び込んだ。外食はほとんどしないが、このカレー屋かラーメン屋だけには月に一二度来ている。外食はカレーかラーメン、しかも一番安いものだけにしている。

夕食を作るのが本当に面倒な日がある。体調が悪いとき、自炊はしんどい。だから、病んでいるときは特別メニューで弁当や外食は許可されている。自分で許可したのだが。

しかし、この時間帯での外食はまずい。先程も考えたように、夜に腹が減るのは分かり切っている。そのため、カレー代プラスもう一食となる。ビスケット程度ではだめだ。岸和田は夜食を作る気はない。だから、一番安いカレーでも、高いものになる。

岸和田は結局はカレーを食べ、夜食にパンを買ってきて食べた。これが思い出した中身だ。

非常に重大な事柄ではないが、昨日何があったのかと思い出したとき、真っ先にこのカレーがきたのだ。

このカレーは日常を崩すおそれのある行為なのだ。だから、注意して見守らないといけない事柄で、その意味の深さを思い知るべきなのだ。それは半ば暴挙であり、狼藉。

しかし、それ以前の問題として、なぜ昨日、何があったのかと思い出そうとした理由を忘れている。

日記でも付けるとき、昨日のことを思い出そうとするきっかけになるのだが、岸和田にはその習慣はない。

昨日のことを思い出そうとしていたのは、今日はどんな一日になるのだろうかと思ったためかもしれない。その参考として、昨日のことを思い出そうとしたのだろう。

了